



Issue on June 1, 2012

もりこう

VOL.42

発行所：大森学園同窓会
大田区大森西3-2-12
大森学園高等学校内
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
FAX 03(3766)0314
Mail：info@moriko-kai.jp
URL：http://www.moriko-kai.jp/
発行責任者：大谷正勝
編集責任者：広報委員会
題 字：山崎正男先生

被災地に車いすを贈って

車いすボランティア顧問 塚田 尊明

先の東北大震災後すぐ、車いすが必要だと現地の災害対策本部から連絡がありました。車いすボランティアの生徒達がさっそく10台の車いすを用意し整備して贈りました。月日が経つにつれて、ますます車いすの要望が増え、そして何百台という数が必要になりました。このことに対応するため、昨年6月と11月に校内にて車



いす修理大会を開き、多くの方の協力を得て50台の車いすを贈ることができました。支援を続けて行くうち、自然と湧き上がる気持ちがあります。実際

に被災地へ行きたいの思いです。そこで校内で東北ボランティア生徒を募集しました。車いすボランティアの生徒はもちろん、生徒会役員、自動車部、一般の生徒、頼もしいメンバーが16名そろいました。引率は副理事長の井上先生、畑澤校長先生、安達教頭先生、顧問の塚田。誠和会（PTA）から、会長の佐々木さんが参加して下さいました。また、この東北ボランティアは、他の団体との合同でもあり、神奈川工科大学、新潟医療福祉大学などのメンバーが参加しました。そして、12月22日から24日にわたり、修理した車いすを持ち現地の福祉施設を訪ね、贈呈と修理活動を行いました。いくつかの地域を訪問しました。宮城県仙台市、女川町と南三陸町、岩手県大船渡市と一関市に行きました。被災地の状況はテレビ等で大体のことは予測していましたが、実際に津波被害の跡地に行くと、本当の現場から伝わる衝撃はもの凄いのがありました。見渡す限り何も無くなった町。足元は家だったのであろう痕跡があり、そこには家族がいて、一人ひとりの人生、歴史があつ



たと思うと、なんとも言えない気持ちになりました。横には、幼児物の名前の書かれたリュックサックが転がっていました。この子は

無事なのであろうか。ひらがなで名前を書いてあげた母親は今、その可愛いわが子と一緒にいることができるのであろうか。住む人がなくなった家が、壊して欲しいとも、そのままにして欲しいとも言わず、ただ安心して、割れたガラスから泥にまみれたカーテンを垂らしていました。このような状況が、震災当日から何ヶ月も経っているのにまだ時が止まったままとなっている。外部から来た我々に何が出来るのだろうか。しかし、そこで強く逞しく生きている人々がいる。自分達にできることを、気持ちを込めてやればよいのだ。それは大森学園高校が車いすボランティアを始めて15年、いつもできることをやってきた、それと同じことだ。

復興したら終わりではなく、この出会いから未来へ続く活動として行きます。



『修理ラジオを被災地へ』おもちゃの病院（P10掲載）

平成24年度 もりこう会総会・懇親会のお知らせ

【日時】 平成24年6月30日(土) 母校：大森学園高等学校にて
受付 午後3時00分より I、午後4時より総会 II、午後5時より懇親会(無料)
【会場】 総会 教室棟3階 会議室 懇親会 教室棟8階 パノラマラウンジ

多くの方のご参加をお待ちしております。校舎及び近隣には駐車場・駐輪場はありません。母校、学園祭は9月21日(金)・22日(祝) 2日間開催いたします。

— もりこう会ホームページもご覧ください —
<http://www.moriko-kai.jp/>

雑感

会長 大谷正勝



会員の皆様には息災でご活躍のことと拝察申し上げます。日頃、もりこう会の諸活動には暖かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

東日本大震災の発生から一年余りが経過しました。改めて被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、被災地の日も早い復興をお祈りしております。

さて母校の動静ですが、前号でお伝えした校外施設「有隣寮」の完成に伴い、創立七十周年の前後数年を費やした学園施設のリニューアルは無事完了したものと推察いたします。

何うところさらに充実した教育環境のもと、熱意溢れる先生方のご指導と生徒さんの学習意欲の高まりが相まって、様々な面で成果が発露し

ているとのこと。

同窓生として誠に嬉しく頼もしく感ずるところであります。

大震災、原発事故それに続いたタイ国の洪水による日系企業の被災、ヨーロッパの金融危機等に連動した円高とこの国の経済環境は低迷しています。

グローバル化の進展するなか、天然資源の乏しい日本がこれからは安定した社会を維持していくには、どのような方策があるのでしょうか。

今日、人も物も垣根を越え国境を越え、大きなうねりとなって流動しています。先進国は市場の飽和や人口減少で国内市場の停滞、縮小等で成長力は鈍化傾向にあり、他方発展著しい新興国では所得水準の向上、人口増加等により市場規模は日毎に拡大しています。

その結果、新興国市場の獲得競争は激化の一途にあり、如何に現地のニーズにあつた商品を低価額で即応できるかが市場獲得の鍵と云われま

す。日本企業も現地企業や外国企業との市場獲得にしのぎを削っていることは、ご承知のとおりであります。

この状況を示す例として、自動車業界のなかには生産比率が国内一に対して海外3のメーカーも現れ、他のメーカーもその方向に進みつつあると、至近のデータは示しています。

この傾向は他業界にも及び、更に加速の度合いは高まっているようです。

あるデータによると4半世紀前の日本の世界貿易に占める輸出シェアは、10%強でしたが二〇〇九年にはその半分以上まで、低下していると云う事実もこの裏付の一つでしょう。

物作り拠点の海外志向が更に強まると、既に顕在化している雇用数の減少、リストラなどが一層拡大基調となる恐れがあり、国内経済に与える影響は計り知れません。特に今後社会を背負う若者への影響は無視できず、社会不安の要因にもなりかねません。

振り返ってみるに明治政府の種々の施策と、勤勉で教育熱心な国民の努力が功を奏しわが国は非西欧圏でいち早く近代化、工業化を成し遂げました。以来一四〇有余年この伝統実績は脈々と受け継が

れ、天変地異や様々な困難を乗り越え世界有数の工業国、先進国へと発展、今日、日本ブランドといえは高品質の代名詞として云われるまでになっています。

一方外国企業の中には、日本に追い付き追い越せと猛追し、分野により日本企業を凌駕するところも現れていきます。

これまで素材開発や製品製造技術等様々な面で世界をリードし、世界ブランドとして高い評価の製品を次々と市場に送り出してきた日本です。

これからは追われる立場ですが、実績に胡坐をかくことな

く、一歩先んじる意欲と努力を怠らなければ、厳しさの中にも明るい未来が開けると確信しています。

言うまでもなく、人の思いと営みは社会を発展させることも衰退させることもありま

校長 畑澤正一

顔を上げて先を見よ！



経、日本青少年研究所調べ）で分かった。

「留学したい」と答えたのは韓国82.2%、中国58.2%、米国52.9%、日本46.1%。その理由（複数回答）で日本は「語学力を身に付けたい」が79.9%で最も多く、「視野を広げたい」が79.5%。一方、「その国の進んだ知識（芸術系、工学・理学系）を獲得したい」は

28.0%にとどまり、5割に達した米国や中国と差が開いた。

「留学したくない」理由で日本は「自分の国が暮らしやすい」53.2%、「言葉の壁がある」48.1%、「外国で一人で生活する自信がない」42.7%の順。「経済的に難しい」は日本が19.5%に対し、米国が46.5%、中国が43.3%、韓国が43.1%。一方、「面倒だから」は日本が38.5%で最も多く、米国が15.7%、中国が33.0%、韓国が31.7%となり、日本の高校生は経済的に恵まれていながら意欲が乏しい実態が浮かん

だ。インターネットで他の調査を検索すると、「大事にしていること」では、「家族が仲良くする」「先生に理解される」「親に自分をわかってもらう」の比率は米中韓に比して著しく低い。親との関係において日本の高校生は、自分の優秀さを親が評価していることへの肯定率が低い。米国91.3%、中国76.6%、韓国64.4%に対し、日本は32.6%に過ぎない。また、教師との関係も相対的に希薄で、優秀さの評価（2割弱）、相談しやすさの評価（3割弱）がいずれも4カ国中最低である。友人関係において

は、友人と一緒にだと楽だと感じて高く評価しているが、「相談できる友達がいる」の肯定率が4カ国中で最も低い。

「自己評価」では米国と中国の高校生は自己肯定感(自尊心)が強く、日本の高校生の自己評価が最も低い(全くそうだ)の比率)。「私は価値のある人間だと思う」日本7.5%、米国57.2%、中国42.2%、韓国20.2%。

ネガティブな性格項目について、日本は「自分はダメな人間だ」「自分の将来に不安を感じている」「人並みの生活ができれば十分だ」の比率が際立って高い。一九八〇年および二〇〇二年の調査と比較して、日本の高校生は「積極的な人間」「価値のある人間」と自己評価する比率が高くなっているが、同時に「現状をそのまま受ける方がいい」は、一九八〇年24.7%、二〇〇二年42.1%、二〇一一年の今回では56.7%と著しく増えてきた。一方、「ダメな人間」について「よくあてはまる」と答えたのは、一九八〇年12.9%、二〇〇二年30.4%、二〇一一年36.0%と、ほぼ3倍水準にまで大きく増加した。

この調査から見ると、日本の高校生は親や先生に理解されていないし、自分の優秀さを評価されていないと考えている。あるいは評価されたいと望んでいるとして、その事自体はそれほど大切だと思わないということだろうか。親や教師は「価値のある人間」であり、「優秀な子ども」であると評価しているのに、こどもが「理解されていない」「評価されていない」と考

えているとしたら、大きな誤解があることになる。それが「自信のなさ」や「積極性のなさ」、また生き方にまで繋がっているとしたら由々しき問題である。直ぐにでも親・教師、社会全体がそれをストリートに正しく伝える必要があるようだ。

森工の苦難時代

理事長 米澤正倫



私が大森学園に勤めることになったのは、昭和二十六年六月一日でありますから、昨平成二十三年五月三十一日で満六十年勤続となります。丁度節目となりますので、今まで学校史に記録されていない事柄に少し触れてみたいと思います。

勤めはじめた頃は、わが国が太平洋戦争に敗れ、占領軍命令で日本の重工業生産は停止となり、工業界の火は消え

から使用している1214坪と、前理事長(米澤勇作)が自分の土地を提供、都有地と交換して学校用地となった300坪の土地だけでした。工業学校認可の時確保してあった運動場用地753坪(現在の大森西二丁目の環七通りに近い処)は、協力工場で役員との共有であったため、終戦で経営に行き詰った工場の運転資金に変わってしまいました。東京の私学協会では大森学園は活動停止となるだろうとの噂であったというのも不思議ではない苦難時代でありました。

その影響がまだ続いている状況下でありました。工業教育の人口凋落、大森学園の生徒数は昭和二十六年度全日制116名、定時制195名、併設されていた大森学園中学校63名。先生は専任14名、非常勤6名という規模の小さい学校でありました。体育科非常勤講師の先生は授業のある日は、朝礼の体操指導に岩槻の自宅から出て来たことを憶えております。校舎は新築ではなく、工場として使用されていた建物を解体移築したもので、建坪120坪の二階建木造校舎で、校地の西側には、建築工事がストップ状態となつた木造実習工場があるのみでした。校地は徒弟学校時代

でもあります。その後、時代の要請が工業学校の充実向上という流れであり、文部省認可の工業学校への転換となりました。徒弟学校・工業学校の教育は順調でありましたが、工業学校発足後僅か三年で、昭和二十年四月十五日アメリカ爆撃機の焼夷弾で校舎は全焼。大森・蒲田は広い範囲に亘り焼土と化し、ついで八月十五日には日本の敗戦となりました。学校運営に加盟している工場は殆どが戦災又は敗戦のため操業停止か廃業の事態に追い込まれ、学校運営から離脱。残った役員も学校再建には極めて否定的で、前述にあつた運動場用地を手放すことになつたものと思えます。

最近、私学経営に株式会社が入参することの提議がなされております。株式会社は参入ということ、学校経営を市場原理に委ねることであり、採算性の優先視が考えられ、教育の永續性の無視が危惧されます。終戦直後の本学園はそれに近い状況だったと思えます。

前理事長は単独での学校再建を背負うことになりましたが、肝心の資金調達はこの銀行からも相手にされず、親戚から個人借入金或いは自分が所有している何ヶ所かの土地の売却代金を再建資金と致しました。売却した土地の一つに京急富岡駅から中里方面に歩いた処の山林がありました。私も小学生の頃父の工場の従業員とその山の松林の下刈りに出かけた記憶があります。今は立派な住宅地に整備されており、父はあの山を手放したのは惜しかったと漏らしておりました。そのような思いからか、その後校地を拡げる努力を続けましたが、学校からの交通の便の良い処は入手困難と諦めて、取得したのが江戸崎グラウンド用地であります。取得価格は校内で説明出来る程度でありました。面積は約8000坪と広いが交通の便は大へん悪い。電車だと土浦からバスに一時間近く乗る。自動車では、どの国道も渋滞の連続で充分な利用は出来ませんでした。成田空港が開設されて、東関東自動車道が開通し、更に現在は圏央道のインターチェンジが近くに出来て大へん便利な場所となりました。合宿所も改築されて運動部合宿だけでなく、進学補習合宿にも使える施設となりました。今改めて前理事長の先見の明に感謝致しております。

地売却代金を再建資金と致しました。売却した土地の一つに京急富岡駅から中里方面に歩いた処の山林がありました。私も小学生の頃父の工場の従業員とその山の松林の下刈りに出かけた記憶があります。今は立派な住宅地に整備されており、父はあの山を手放したのは惜しかったと漏らしておりました。そのような思いからか、その後校地を拡げる努力を続けましたが、学校からの交通の便の良い処は入手困難と諦めて、取得したのが江戸崎グラウンド用地であります。取得価格は校内で説明出来る程度でありました。面積は約8000坪と広いが交通の便は大へん悪い。電車だと土浦からバスに一時間近く乗る。自動車では、どの国道も渋滞の連続で充分な利用は出来ませんでした。成田空港が開設されて、東関東自動車道が開通し、更に現在は圏央道のインターチェンジが近くに出来て大へん便利な場所となりました。合宿所も改築されて運動部合宿だけでなく、進学補習合宿にも使える施設となりました。今改めて前理事長の先見の明に感謝致しております。



旧職員便り

振り返って

齊藤正昭



昭和三十二年五月一日今からおよそ五十五年位前、私は初めて森工に赴任しました。当年二十五歳でした。最初は定時制の三年の担任になりました。昼間働いて夜学校へ来る人達です。四年で卒業して行きました。

その後、昼間の担任として、二年三組機械科の担任となり、大いに張り切りました。二期期の後半になると、就職の時期になり、生徒も真剣でした。何とか就職も進学も決って、一人の落伍者もなく、無事卒業することができました。卒業後今でも続いている、クラス会は昭和三十八年卒業のクラスで「三八会」と名付けて、毎年のように、集っております。私にも声がかかり、楽しく出席しております。回を重ねるうち、出席者も多くなりました。それも幹事さんが、しっかりと連絡先を把握して、クラスをまとめる努力が大いに力になっているのだ

卒業生便り

NHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」時代のもりこう

昭和27年電気通信科卒 神田晴喜



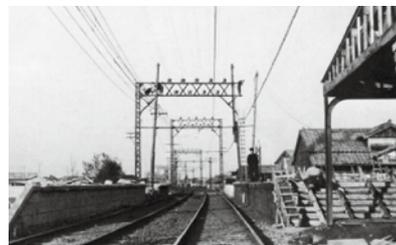
4月からの連続テレビ小説「梅ちゃん先生」は、昭和20年8月15日終戦日の蒲田の場面から放映開始されました。

これからも大森学園が、ますます発展されることを祈念いたします。



(在職期間 昭和三十二年五月、平成七年三月 英語科)

国民(小)学校から十全病院、大森山谷(現大森町)駅に亘り爆撃され、辺りが火の海となりました。



戦災で焼失し閉鎖の大森山谷駅 (京浜急行80年の歩みから)

波状爆撃の爆弾・焼夷弾投下は熾烈を極め、焼夷弾は炸裂と共に熱焔を吹き上げ烈風にあおられ猛炎の海です。爆撃もやっと午前4時頃警報解除で終わったが、火の手は収まらず辺りは全て残さずに燃え盛りました。この空襲で、徒弟学校が母体の昭和14年創立の大森工業学校舎は灰燼と化しました。



大森工業学校戦災跡の航空写真 昭和22年(大森学園保管資料から)

大森工業学校 森ヶ崎仮校舎での再興

昭和20年秋に疎開先から第1国民学校に戻り、翌年3月に卒業して、呑川辺の森ヶ崎にかけて焼け残った、第4国民学校近くの大森9丁目(現大森南3丁目)の元山中電機工場跡に移転した仮校舎で、5年制の旧制中学の大森工業学校(電気科・機械科の実業学校)に入學しました。森ヶ崎仮校舎への通学は、京急梅屋敷駅から京浜国道、羽田街道(産業道路)を越え、呑み川を渡り、徒弟学校の流れを継いだ昼間部と夜間部大勢の生徒が列を作り、職員室と教室が対角にある仮校舎に通いました。



戦災後の森ヶ崎仮校舎周辺地図

工場跡・仮校舎の階下は、土間に荒削り板で仕切った教室で、工場跡に転がる鉄板をコの字に曲げて椅子代わりと

し、机など無い授業風景でした。昭和22年の六・三・三制学制改革により、大森工業学校から新制の大森学園中学校(普通科)と大森工業高等学校に分離され、実業学校から有無を言わさずの新制中学編入で、2年進級では電気科の授業は無くなり私立中学生です。新入生は大田区からの委託生が入り、夜間生は新制の大森工業高等学校へと継続しました。



(大森学園 70 年の軌跡 DVD から)

古巣の現在地での 大森工業高等学校復興

意図せぬ新制中学の昭和24年3月に、仮校舎工場建屋を内川辺に移築して、再建大森工業高等学校校舎で卒



大森学園中学校卒業記念 筆者：前から 4 列目の右から 2 番目

業式を挙げて、4 月には古巣校舎に復興した大森工業高等学校電気通信科に入学しました。移転して大森学園中学校は大森第 4 小学校の学域で無くなり、委託生は 2 年間で打ち切りとなり、一般募集を行いました。新校舎への通学路は、京急学校裏（現平和島）駅と国鉄（JR）大森駅から、諏訪神社裏通りを経て内川を渡り登校しました。

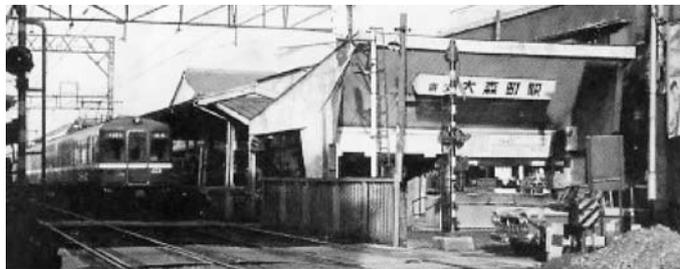
京急大森町駅再開と高架化進展
戦後は、経済が苦しい中皆日本の復興を願い、学習意欲に燃え、昼間生よりも夜間生の方が多く、物資が無くても



大森工業高等学校卒業記念（完成したばかりの実習工場） 筆者：前から 2 列目の右から 4 番目

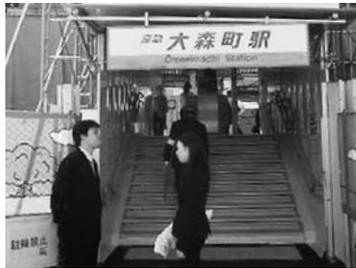
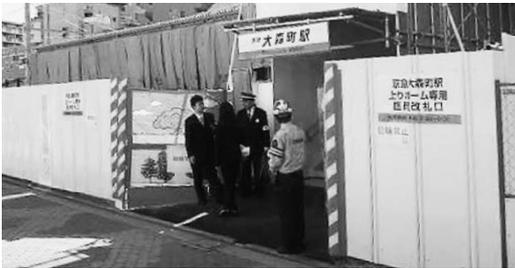
校舎復興から 3 年経過した昭和 27 年 3 月に、校庭の西端に実習校舎が建ち、その前で卒業記念写真を撮りました。が、物資欠乏時代なので工業学校なのに電気・機械実習や実験の設備はなく行うことがありませんでした。

戦後から大きく時代は跳んで、復興なった平成 18 年に京急高架化工事が開始され、京急唯一の大森町駅構内踏切が廃止されて、朝の通勤時に大混雑が生じました。そこで、上りホーム中間に臨時改札口が設けられましたが、大森工業学校専用改札口となった様で、混雑はその後に踏切道の拡幅を行い解消されました。



大森町駅としての営業を再開したモダンな駅舎（京浜急行 80 年の歩みから）

豊かな気持ちを抱いていました。震災により下り線ホームの残骸を曝していた京急大森町駅は、ようやく昭和 27 年 12 月 15 日に営業が再開され、登校の下車は大森町駅にと移りました。



上りホームの混雑緩和のため臨時改札口開設



以上項目の各詳細記事は画像を含めて、個人ブログの Kanharu 日記に掲載しています。ブログの目的は、昭和時代前の古い記録は殆ど残っていないのが現状で、記録は残して置くのが重要と認識のもとに投稿を始めました。ブログは、「Kanharu 日記」と検索して開き、各カテゴリーの目次を見て各種の記録記事をご覧ください。日に 4、5 百人が訪れ、2 千編の記事を閲覧頂いています。

在校生の活動を見る

平和島 O.T.A ふれあいフェスタや大森コラボでの地元住民と毎年接して活動する在校生を見ていますが、平成 22 年 8 月に資料が欲しいとの縁で、鉄道研究部が全国高等学校鉄道模型コンテストに出展する、車輜ドアーカットの梅屋敷駅 N ゲージボードの追い込み製作中の活動に訪れ動画撮ったりしました。東京ビッグサイトでのコンテスト出展では、見事に入賞の活躍でした。



鉄道模型コンテスト初参加作品

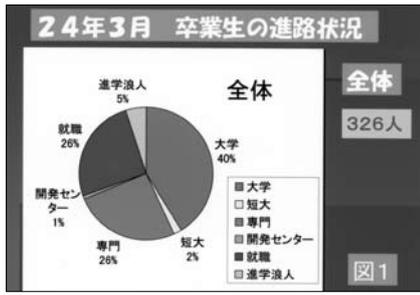
平成二十三年 就職・進学状況

進路指導部長 加藤三郎

同窓生の皆さん、こんにちは。それぞれの分野にてご活躍の事とご推察致します。

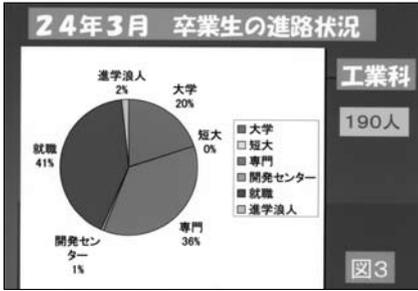
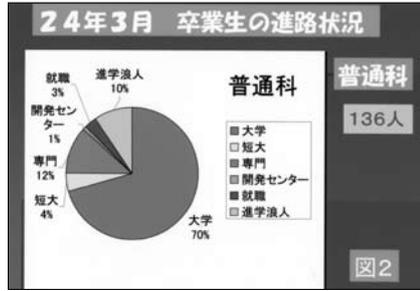
本校も普通科を設置し8年目、普通科の卒業生も5回目を迎え、すでに女子3期目も今春には巣立ちOGも徐々に増えております。

本年3月卒業した生徒の進路状況につきまして報告をいたします。



進路は図1のように約40%の生徒が4年制の大学に、26%が専門学校に、26%が就職をしました。また、普通科・工業科に別けますと、普通科は図2に見

られますようにほとんどの生徒は進学いたしました。また、工業科の生徒も図3に表示されるように約60%の生徒は進学し、就職の生徒が40%となりました。



普通科においては大学進学が5%ほど増え、その分専門学校への進学率が減り、工業科においては大学進学率が5%ほど減り、その分専門学校への進学率が増えている傾向が見られます。

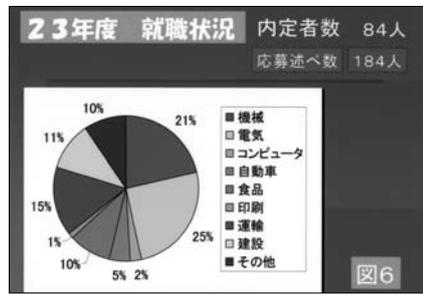
要因としては保護者の方の高学歴化・少子化による親の子供に対する期待度の高さも考えられますが、社会状況を考慮し、大学卒業後の進路も視野に入れた選択がなされている傾向も見られます。

23年度 進学状況 全部で223名合格

大学	合格者数
お茶の水女子大学	1
山形大学	1
琉球大学	1
国公立に3名合格	
立教大学	1
中央大学	1
法政大学	2
日本大学	6
東洋大学	4
短期大学は除く(過年度卒含む)	
駒沢大学	3
専修大学	8
大東文化大学	4
東海大学	7
亜細亜大学	1
帝京大学	16
国士舘大学	2

次に進学実績を図4に表しました。国公立に3名・GMARCHに4名を含め

て4年制大学に223名の生徒が合格しました。大学進学者は昨年度より約40名増えましたが、上位大学への合格者増は来年度に期待することとなりました。



就職に関しては図5に示すように求人企業数はほぼ昨年度と同じ求人数(506社)になっております。不況というものの図6に表した通り、それぞれの業

種に就職希望者全員内定という結果で終了しました。これらも実社会において卒業生が評価されていると同時に母校に対する想いから求人依頼を積極的に行って頂いている結果だと考えます。

あります。指導部の目標としては、本校生徒の将来の夢実現のために、目的の大学合格と入りたい企業に合格できるような指導に専念したいと思っております。是非卒業生の皆様にもハード面・ソフト面共にチェンジした大森学園を気楽に見学して頂きご理解を賜りご協力頂けますようお願いいたします。

高校生ものづくりコンテスト 全国大会出場

・電気工部門 ・旋盤部門



ものづくり全国大会の予選会として、東京都の大会が、夏休み期間中の七月

二十八日(木)に東京電業会館で開催され、本校から三年電気科一組の生徒二名が出場しました。両名の生徒は第二種電気工事士の資格も取得し、大変頑張りやの生徒です。大会に向けて六月上旬より練習を続け大会に備えてきました。全国大会が東京都で開催と云う事から予選会での優勝を目指して取り組みました。電気工事の大会では、木造の壁に屋内配線を施工し、競技時間内に完成させ正確さや出来栄が審査対象になり

出場参加選手八名の中で優勝・第三位の成績を挙げることができました。優勝した原島直裕君は「高校生ものづくりコンテスト」全国大会東京都大会に出場が決まり第三位に入賞した大浦竜拓郎君は東京都代表選手として関東大会に出場いたしました。関東大会では第五位に入賞する事ができ、全国大会に出場する原島君にとっても大変勇気付けられた大会でした。全国大会は十一月二十日(日)に都立城東職業能力開発センターで行われ全国から九名の選手と本校から原島直裕君



ます。当日は大変な暑さの中での大会になりました。

この大会は十一月に行われる全国大会出場への選考会も兼ねております。



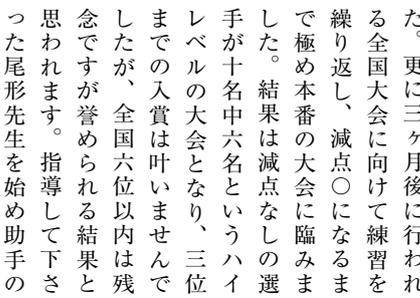
東京大会優勝(全国大会出場) 八月二十六日(金)蔵前工業高校においてもものづくりコンテスト東京大会が行われました。



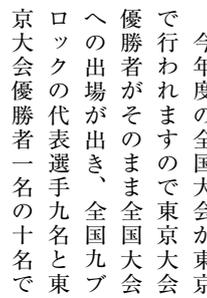
◆旋盤部門◆

を含め十名が出場しました。全国大会と言う事でかなり緊張した面持ちでしたが、競技時間内に課題を完成する事が出来、良い経験になったと思います。今後も全国大会出場を目指して指導して行きたいと思っております。

今年度の全国大会が東京で行われますので東京大会優勝者がそのまま全国大会への出場がいき、全国九プロックの代表選手九名と東京大会優勝者一名の十名で行われます。昨年度準優勝の三年機械科一組の塩原君は一年間練習を重ね、プレッシャーと戦い、見事東京大会四年連続優勝を果たし全国大会出場を達成しました。更に三ヶ月後に行われる全国大会に向けて練習を繰り返して、減点〇になるまで極め本番の大会に臨みました。結果は減点なしの選手が十名中六名というハイレベルの大会となり、三位までの入賞は叶いませんでしたが、全国六位以内は残念ですが誉められる結果と思われず。指導して下さった尾形先生を始め助手の先生方や、応援して頂いた関係者の皆様、感謝いたします。



今年度の全国大会が東京で行われますので東京大会優勝者がそのまま全国大会への出場がいき、全国九プロックの代表選手九名と東京大会優勝者一名の十名で行われます。昨年度準優勝の三年機械科一組の塩原君は一年間練習を重ね、プレッシャーと戦い、見事東京大会四年連続優勝を果たし全国大会出場を達成しました。更に三ヶ月後に行われる全国大会に向けて練習を繰り返して、減点〇になるまで極め本番の大会に臨みました。結果は減点なしの選手が十名中六名というハイレベルの大会となり、三位までの入賞は叶いませんでしたが、全国六位以内は残念ですが誉められる結果と思われず。指導して下さった尾形先生を始め助手の先生方や、応援して頂いた関係者の皆様、感謝いたします。



平成23年度 もりこう会決算書 (自:平成23年4月1日~至:平成24年3月31日)

【収入の部】		(単位:円)			
科	目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費等収入	① 1年生会費収入	1,310,400	1,310,400	0	364名×3600円(300円×12ヶ月)
	② 2年生会費収入	1,051,200	1,051,200	0	292名×3600円(300円×12ヶ月)
	③ 3年生会費収入	2,763,600	2,780,400	▲ 16,800	331名×8400円(700円×12ヶ月)
	④ 寄付金収入	400,000	566,000	▲ 166,000	121件
	⑤ 受取利息収入	15,000	5,591	9,409	普通預金・定期預金・有価証券
	⑥ 過年度会費収入	0	12,000	▲ 12,000	平成22年度分受入 2名
	⑦ 雑収入	0	0	0	
当年度収入合計		5,540,200	5,725,591	▲ 185,391	
前年度繰越資金		4,150,494	4,150,494	—	
収入の部合計		9,690,694	9,876,085	▲ 185,391	

【支出の部】		(単位:円)			
科	目	予 算	決 算	差 異	摘 要
学校等補助費	① 設備補助費	0	0	0	
	② 行事補助費	150,000	150,000	0	学園祭補助として生徒会へ
	③ 課外活動補助費	300,000	300,000	0	校友会へ
	④ クラス会援助費	100,000	0	100,000	
	④ 卒業記念品費	450,000	436,800	13,200	卒業証書ホルダー 2年分
⑤ その他の補助費	100,000	100,000	0	高校総体補助(レスリング部)	
運営費	① 会報発行費	2,300,000	2,268,000	32,000	
	② 総会費	400,000	400,000	0	
	③ O B 広場	100,000	93,771	6,229	学園祭
	④ 会議費	200,000	194,979	5,021	役員会食事代
	⑤ ホームページ維持費	100,000	79,590	20,410	サーバ年間レンタル費用
	⑥ 交通費	200,000	210,000	▲ 10,000	役員交通費
	⑦ 事務局費	50,000	3,762	46,238	お茶代・切手代等
	⑧ 慶弔費	100,000	61,580	38,420	香典及び生花代 4件
	⑩ キャリアセミナー運営費	180,000	176,600	3,400	
	⑪ 雑費	50,000	44,468	5,532	寄付金払込手数料 他
	予備費	300,000	90,234	209,766	有隣寮見学会費・専用パソコン購入
⑫ 同窓会維持積立金	500,000	500,000	0	さわが信用金庫/定期	
当年度支出合計		5,580,000	5,109,784	470,216	
次年度繰越金		4,110,694	4,766,301	▲ 655,607	
支出の部合計		9,690,694	9,876,085	▲ 185,391	

もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力をお願いについて

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。本年もここに関係各位のご協力により、会報42号をお手元にお届けすることが出来ました。

本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催等など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。

これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいる所存です。今後とも、よろしくごお願い申し上げます。

さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。

就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

クラブ活動報告

バレーボール部

【23年度結果】

- インターハイ予選
- 東京都大会 都ベスト 32
- 関東私立高等学校バレーボール大会 Aブロック出場
- 全国私立高等学校バレーボール大会 出場
- 秋季大会 ベスト 32
- 私学大会 ベスト 16
- 新人戦 ベスト 32



今年度は、昨年度と同様に苦渋をなめるような結果となりました。新チームになり、中々思うような結果を出せない状態が続きました。しかし、低空飛行ではありますが、この春休みの合宿でできた実感してい

ます。今年度は新一年生が、七人入り、初のマネージャーも入部しました。これから関東予選に向けて良いスタートが切れそうです。

今後これ以上の成績を収められるよう、日々努力していきたい所存でございます。

昨年度で今までバレーボール部に携わっていた山下先生が定年退職しました。しかし、後二年間引き続きクラブ顧問に携わっていただきますのでOBの方々も是非足を運んで下さい。こころよりお待ち申し上げます。

PS バレーボール部のブログです。よかつたら見てくださ。

<http://blog.google.jp/jimadesu/>

レスリング部



本校レスリング部は今年度創部49年目を迎え、毎日切磋琢磨練習に励んでいます。現在の部員数は3年生2名、2年生4名、新1年生が10名入部し、全学年合わせて計16名

に増え、互いを刺激しながら集中した練習を続けています。新入部員の中にはレスリングの経験者4名、本校初となる女子生徒もマネージャーを含め3名が入部しました。



昨年度には全国総体(インターハイ)学校対抗戦出場、関東選抜大会60kg級優勝、全国選抜大会60kg級第3位入賞、東京都新人戦大会、学校対抗戦優勝など、非常に良い結果を残してくれました。今年度は2年連続の全国総体(インターハイ)出場、本校初となる全国大会ベスト16

鉄道研究部

を狙えるチームだと思えます。応援よろしくお願い致します。

第3回全国高等学校鉄道模型コンテストにおいて

2年連続「特別賞」を受賞
今年度は参加校数46校と全国から多数応募があり、平成23年8月19日(金)から21日(日)まで東京ビックサイト西館4階で開催されました。



今年のテーマは「京急大師線 産業道路駅 周辺を模型化しよう」と4月から製作に入りました。模型化した作品は2005年頃の駅周辺を再現しました。工業地帯の一角にある駅で朝・夕ラッシュ時には閑散とした駅です。近くには駅名に使われている、産業道路が横切り、上には高速道路があります。車の渋滞が慢性的に発生する場所です。将来駅を地下に移す工事が行われています。建物やホーム・駅

舎などプラ板を加工して自作しました。平成24年度作品は現在順調に製作が進んでおります。今回は曲線レールを使用したジオラマ作品になりました。上位入賞を目標に部員一同頑張つて製作しております。



ロボット研究部

ロボット研究部は、平成24年2月に東京都立町田工業高校で行われた、高校生パフォーマンスロボット競技大会に参加しました。

この大会は、走行部門とパフォーマンス部門の総合得点で順位が決定します。また、空き缶やペットボトルなどのリサイクル品を材料に使用するという規定があります。

走行部門は、指定されたコース上をライントレースして、走行の正確さを競います。2分30秒で、ゴールできないと早くても、遅くても1秒につき、1点減点されます。パフォーマンス部分は、走



行中にロボットを動かし、パフォーマンスを見せ、5名の審査員により、得点が与えられます。パフォーマンスには、特に規定が無く、各チームのアイデアが問われます。本校からは「VSG」と「mochi」の2台のロボットが出場しました。「VSG」は、体長30cmの巨大ゴキブリを、殺虫剤ゴキジェットGが追いかけて退治するパフォーマンスでしたが、本体のバランスが悪く走行トラブルが発生してしまいました。それでも、パフォーマンス部門の得点が高く、4位に入賞することができました。「mochi」は、餅の形をした紙粘土の中に仕込んだ風船を走行中に膨らませ、餅が焼ける様子を表現しました。走行も、指定時間(2分30秒)ピタリでゴールすることができました。結果は3位で、盾と賞状を頂くことができました。来年も大会に参加して、さらに上を目指したいと思っています。

修理ラジオを被災地へ

おもちゃの病院顧問 百瀬浩一

— 私たちで何か支援をしたい —

3.11の震災後、おもちゃのメンバーが真っ先に私のもとに集まり、提案してくれました。このような発言をメン



バーから聞いたことは、顧問にとってこの上ない喜びです。

技術向上だけでなく、思いやりのある行動を心がけるなどの日頃の活動から、メンバーひとりひとりが多くを学び、成長していることに感動しました。

被災地に向け、できる事は何かを模索していたところ、本校OBから、ものづくりの教材として利用してほしいという事で、手巻き式充電ラジオ約80個の寄付がありました。

不良品という状態ではあったものの、ライトやサイレン機能などの多機能を備えたラジオだった為、これを被災地で利用してもらえるよう修理することにしました。

思いを一緒に届けたいというメンバーの意見から、このラジオに可愛らしいラッピングを施し、応援メッセージを添えて届けることができました。

これまでも、修理依頼品はおもちゃだけに限らず、生活用品や家電に及ぶこともあったのですが、その都度依頼者の大切なものを直そうという意識で修理を心がけてきました。そんな彼らにとって、この思いがけない依頼品はものづくりの楽しさをあたためて知り、人のために何かができることの喜びを感じられ、よい経験となったと思います。



今後もこのような、気持ちのある活動を継続していきたいと思っています。

ご支援のほどよろしくお願いたします。



編集後記

副会長、広聴委員長 勝島憲三



東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様の、一日も早い復旧、復興を祈念しております。

第42号会報でも、被災地車いす贈呈・修理活動を、生徒16名、校長先生以下引率の先生4名・誠和会(PTA)会長、神奈川工科大学

3名、新潟医療福祉大学8名、ボランティア3名・計35名の皆様で、東北の被災地で行い、又、電気科の先生、生徒さんによるハンドル式ラジオの修理、贈呈等、大森学園として被災者支援事業を行った事を、記載いたしました。今、NHKで放映されている、梅ちゃん先生の舞台(蒲田周辺)や、その時代の背景等、写真を交えて、卒業生の神田晴喜さんに、寄稿して頂きました。最後に、忙しい中寄稿して下さいました皆様、会報発行にご協力して下さいました皆様にも、もりこう会役員一同心より、厚く御礼申し上げます。

会報「もりこう」に関わる アンケート調査にご協力を

会長 大谷正勝
役員 一同

同窓会報「もりこう」は、卒業生と母校あるいは同窓生間を結ぶ情報誌として母校の動向、恩師、同窓生あるいは在学中の皆さんの近況等をお伝えすべく、年1回会員の皆様にお届けしております。

もりこう会(以下本会と称す)では、会報と並びホームページ(以下HPと称す)を開設しておりますが、ご覧いただいておりますでしょうか。

ご承知のとおり昨今、パソコン等情報機器の発達は目を見張るものがあり、インターネットの利用領域も急速に拡大しております。

本会ではこの状況に鑑み、今後HPの更なる充実を図り積極的に活用してまいりたいと考え、過日その準備作業に着手いたしました。当面は早急に会報がご覧いただけるよう整備するとともに、順次HPの特徴を生かした活用策を図ってまいりたいと思っております。

ついでにはこの機会に、HP上で会報がご覧になれるようになった場合(本年8月頃を予定)25年度以降の会報送付を従来通り希望されるか否かを、調査致すこととなりました。ご多用の折恐縮ですが、同封ハガキのアンケート内容を確認のうえ、調査にご協力の程よろしくお願申し上げます。

なお、25年度以降の会報はアンケート調査の結果に基づき、送付を希望された方にお送りいたしますので、よろしくお願申し上げます。

記

アンケート返送期限：平成24年9月30日

以上

contents

被災地に車いすを贈って(車いすボランティア).....	1	平成 23 年度 もりこう会決算書.....	7
平成 24 年度 もりこう会総会・懇親会のお知らせ		もりこう会運営寄付金ご協力のお願	
会長・校長挨拶.....	2	平成 23 年度 もりこう会寄付金者.....	8
理事長挨拶.....	3	平成 23 年度 潮の光奨学金寄付金者	
旧職員便り.....	4	クラブ活動報告.....	9
卒業生便り		修理ラジオを被災地へ(おもちゃの病院).....	10
平成 23 年度 就職・進学状況.....	6	編集後記	
高校生ものづくりコンテスト全国大会出場		アンケート調査ご協力のお願	